

伊丹の歴史



奥田 武弘
奥田 伸子

目次

はじめに

- 1、先史時代
- 2、旧石器時代
- 3、縄文時代
- 4、弥生時代
- 5、古墳時代
- 6、飛鳥時代
 - ①聖徳太子と伊丹
 - ②伊丹麿寺の建立
- 7.奈良時代
- 8、平安代
 - ①為名野
 - ②橘御園
 - ③大弐三位
 - ④和泉式部
- 9、鎌倉時代
 - ①鎌倉時代初期の摂津国
 - ②伊丹氏
 - ③鎌倉幕府の滅亡
 - ④建武の乱
- 10、室町時代
 - ①師直塚
 - ②伊丹城の所見
 - ③その後の伊丹氏と伊丹城
 - ④室町幕府の滅亡と伊丹氏の衰退
- 11.安土桃山時代
 - ①荒木村重と有岡城
 - ②山中幸盛（鹿之助）
 - ③青木氏
- 12、江戸時代
 - ①伊丹郷町の発達
 - ②伊丹の酒
 - ③上島鬼賈
- 13、近代～現代の伊丹
 - ①伊丹町の誕生
 - ②伊丹の電車
 - ③伊丹市の誕生

終わりに

参考文献一覧

はじめに・・・

なぜ、いまさら伊丹の歴史を調べようと思ったわけは自分の住んでいる町のことを知りたかったからです。

家族で街歩きをされていて、謎の石碑を見つけたり、町を横切る道路の向きが不自然だったりすることがありましたが、子供に聞かれても答えることができません。

行基、村重、鬼貫、などの伊丹にゆかりのある歴史上の人物も、名前だけ知っているだけで、何をした人かは詳しくわからない。

郷町だって、ただの古い町並みだと思っていました。

そして今回、子供が図書館の調べるコンクールに参加するにあたって、私達も何か調べてみようと思ったのもきっかけです。

これをきっかけに、子供達が何にでも興味を持って、色々な事に挑戦する姿勢を学んでもらえれば、と思いました。



昆虫館・蝶の温室

1、先史時代

今から約12万5千年前、氷河期と呼ばれる時代、日本列島は大陸と陸続きになっていました。

そして氷河期が終わると世界中の氷が解けて海面が上昇し、今まで陸地だった部分が海底に沈んでいきました。

そのころの伊丹周辺はというと、ほとんどの部分は海が広がっていました。

やがて猪名川と武庫川が運んできた土砂が重なっていき、海を埋める動きが始まります。また、地盤運動（地震など）が重なり、やがて北側は隆起(盛り上がる)、南側は沈降（沈んでいく）していきます。

こうした動きにより、私達が今住んでいる今の伊丹台地ができあがったのです。



2、旧石器時代

今からおよそ1万年前、最後の氷河期が終わると世界中の氷が解けて海水が増え、日本列島は島国となりました。この最後の氷河期が終わる1万年前までの時代、人々は打製石器を使用していたので旧石器時代と呼ばれます。

この時代のものはまだ、伊丹市内では発見されていませんが、川西市の**加茂遺跡**の付近で、ナイフ型石器が発見されています。

この石器は今から約24000～15000年前頃の旧石器時代に使用されていたものと言われています。

これらの石器は川西市の宮川石器館に所蔵されています。

発見地は伊丹市内ではありませんが、伊丹台地に古くから人が住んでいたと思われるので、今の伊丹市内にも旧石器時代人が住んでいたかもしれません。

3、縄文時代

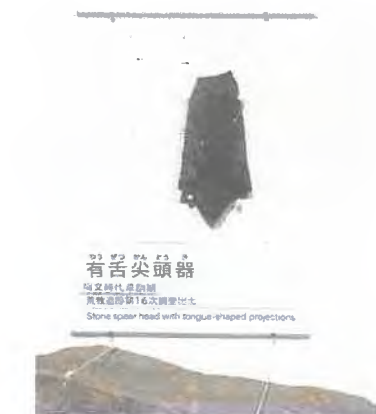
縄文時代はおおまかにいうと、13000年前から2400年前くらいまでの1万年間です。

狩猟と採集を中心とした縄文時代は、旧石器時代にはなかった貝塚、縄目模様のある縄文土器、竪穴住居跡、釣り針、弓矢などの道具が生まれました。

伊丹では平成6年、天神川の右岸の**荒牧遺跡**において**有舌尖頭器**が発見されました。

これにより、今から8千年前くらい前（縄文早期）には伊丹市内に人が住んでいたと考えられます。

その他に**口酒井遺跡**では縄文晩期の土器、土偶、石包丁などが発見されています。この時に出土した土器には、イネの糲痕が付いているものがあり、稲作の始まりがこの時期であるという証拠になりました。



↑伊丹市立博物館より、伊丹最古の発掘物である有舌尖頭器

4、弥生時代

日本列島では、2400年くらい前から農耕文化を中心とした弥生時代が始まります。弥生時代は600～700年間続き、縄文時代にはなかった青銅器や鉄器の使用が広がります。稲作文化が広がるにつれ、人々の暮らしが豊かになり、力を持った権力者が登場します。そして人々の集団であるムラが大きくなり、国ができあがります。

伊丹の地で稲作が行われたのは今から2200年前と言われています。というのも、前期の弥生式土器が大阪空港敷地内のB遺跡で発見されたからです。

空港付近には豊中市の勝部遺跡、尼崎の田能遺跡など、大規模な弥生時代前期の集落が存在しており、その時代のコメ作りに適した土壌だったと思われます。

また、空港敷地内のA遺跡では後期の弥生式土器が出土しています。

そして昭和12年、今の大阪空港敷地内にあった中村という場所で1つの銅鐸が出土しました。伊丹で出土した唯一の銅鐸となります。

銅鐸とは弥生時代のベルで、祭りの際に鳴らされたと思われます。出土場所が空港内にあったA遺跡の近くなので、この遺跡の集落の人々が使用していたのかもしれませんが。

また、縄文期の遺跡と複合する口酒井遺跡、岩屋遺跡など猪名川流域の遺跡や、台地上に位置する荒牧遺跡などが発見されました。ただ、後述する稲野古墳群もそうですが、開発の波にもまれて、人の目に触れずに消えていった遺跡もかなりあると思われます。



(左) 中村銅鐸のレプリカ (中) 職業能力開発校で出土した粉痕のある弥生土器
(右) 弥生土器 (伊丹市立博物館)

5、古墳時代

日本では3世紀から7世紀にかけて、古墳があちこちで作られました。
この時代、古代国家・大和政権が誕生しており、大和地方（奈良）で天皇を中心とした朝廷（政治を行なうところ）がおかれまして。そして地方の豪族を支配していったのです。

古墳というのはその当時、力を持っていた人（王族や豪族）のお墓のことです。

伊丹市内では、古くから多数の古墳があり、周辺一帯が**稲野古墳群**と呼ばれていました。
しかし近代に、市内が開発される際に壊されたり、上に物が立てられたりして、多くは残っていません。

現存する古墳は**御願塚古墳**、**柏木古墳**、**黄金塚古墳**、**平塚古墳**などがあります。

特に**御願塚古墳**は非常にいい形で保存されています。全長52メートル、**帆立貝式**の**前方後円墳**で、以前は二重の濠があったとされています。

また、御願塚古墳を中心として数百メートル内に4つの古墳があったとされ、5つあわせて「**五ヶ塚**」とよばれた、とも言われています。

埋葬者はわかっていませんが、周囲の古墳の発掘状況から見て、「**日本書紀**」に記載のある渡来人、木工技術に優れた**猪名部氏**と関係がありそうです。



現在の御願塚古墳。



6、飛鳥時代

古代の日本において、都が飛鳥や難波宮に置かれており、聖徳太子が摂政となった頃から平城京に遷都されるまでの時代をいいます。

①聖徳太子と伊丹

538年、朝鮮半島より仏教が伝来し、朝廷の政治は仏教に熱心となった聖徳太子と蘇我氏を中心となって進められていきました。

宝塚の中山寺は太子が建立したと伝えられ、伊丹市内にも太子が行き来したと伝わる伝承地（胸繫ぎの松、太子腰掛石、香の藪）がいくつかあります。

②伊丹廃寺の建立

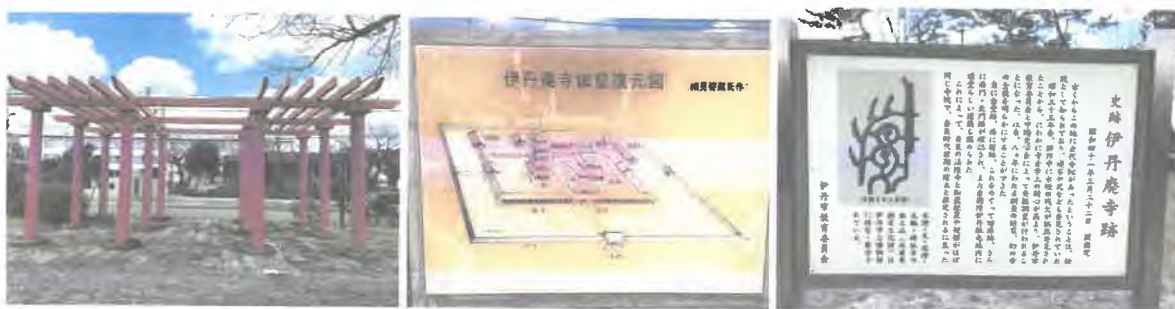
645年、大和政権は蘇我氏を滅ぼし天皇中心の統一国家を作り上げようとします。有名な大化の改新ですが、この改革以後、仏教を中心とした国家づくりに力を入れるようになります。地方では法隆寺、飛鳥寺、といった飛鳥地方の寺院をお手本に、寺を作っていました。その流れで、古代の伊丹で建立されたのが伊丹廃寺です。

緑ヶ丘に位置するこの古代寺院は、8世紀始めにはすでに建立されていたと言われていますが、この寺についての記録はほとんど残っていません。

昭和33年、塔の上に立っている水煙という銅製の遺物が発見されたのをきっかけに発掘作業が行なわれ、法隆寺と同じ伽藍配置を持つ寺院であることがわかりました。また、建立者も不明ですが、当時の有力な豪族だと思われます。

701年、大宝律令が制定され、全国は約60の国に分けられます。国は中央から国司が派遣され、支配にあたりました。国の下にはさらに郡があり、郡司が中央より任命されましたが、この郡司はその地方の有力豪族が選ばれました。

古代の伊丹は、摂津国河辺郡に属していました。一説には川辺郡の郡司の凡河内（おおしのこうち）氏が伊丹廃寺の建立に関わったのではないかと、と言われています。



現在は史跡公園となっている。

7.奈良時代

710年、元明天皇によって都が平城京に移されてから平安京に都が移されるまでの84年間を奈良時代と言います。

745年、聖武天皇によって大仏の建造が始められましたが、当時の仏教は、国家の安全を祈るための仏教であり、貧しい農民の救済は後回しにされていました。

そこに現れたのが行基です。

行基は布施屋（宿泊施設）を作って道行く人々を助けたり、灌漑用の池を作ったりして、農民の生活を支え、近畿圏内に49の寺院を建立しました。

そして行基の元にはたくさんの農民、信者や、土木事業を行なう者があつまり、大きな集団となっていました。

行基とその一行は、伊丹地方では昆陽上池、昆陽下池、院前池、中布施尾池、長江池の五つの灌漑用水池、昆陽上池溝などの2本の溝の構築といった大規模工事を行ないました。ここでの昆陽上池が今の昆陽池にあたるといわれています。

また昆陽寺の前身となった昆陽布施屋を開き、多くの人を助けました。この昆陽寺を舞台にした「昆陽寺の鐘が盗まれた話」という説話が、平安時代末期に成立した「今昔物語集」に収録してあります。



御願塚にある行基像

9、鎌倉時代

平安時代中期になると、貴族や寺社の荘園が全国的に広がり、その荘園に住む地方領主や農民が自衛のために武装し、下級貴族を棟梁として**武士団**を形成します。武士は朝廷や貴族の紛争の鎮圧から警護にあたるようになり、次第に権力をもちはじめます。

そして平清盛率いる平家が摂関家のようにふるまうようになり、事実上日本の最高権力者としてのぼりつめます。やがて平家は同じく武家集団の源氏によって滅ぼされます。鎌倉時代は源氏による**鎌倉幕府**の成立から滅亡までの時代となります。

①鎌倉時代初期の摂津国

鎌倉幕府は、全国の治安維持を目的に、全国に守護（警護）・地頭（土地の管理）を設置し、御家人（幕府の家臣）を任命しました。

しかし摂津国においては、藤原一門をはじめとする公家の力が強く、すぐに守護・地頭を置くことができず、承久の乱で朝廷側が敗北したのをきっかけにようやく守護を任命することができました。

また伊丹周辺は、室町時代ごろまで橘御園が存続していたようです。

②伊丹氏

鎌倉時代末、**伊丹四郎左衛門入道妙智**、**伊丹三郎左衛門尉親盛**が六波羅探題と摂津国守護を兼ねていました。これらの要職に就くのですから、伊丹氏は、よほどの地位と実力を兼ね備えていたと思われる。では、伊丹氏とは一体何者なのでしょう。

一説によると、**加藤右馬允親俊**という人物の孫の代から**伊丹姓**を名乗ったといわれています。この加藤右馬允親俊ですが、遡っていくと藤原氏、伊丹廃寺に関係するといわれる藤原魚名、藤原氏の祖である藤原鎌足までたどりつくといわれています。

また、ある資料によると加藤右馬允親俊は源平合戦で源氏方につき、一の谷で平氏と戦った、といわれています。さらに義経を助けたことにより頼朝の怒りを買った、また鎌倉幕府の評定集に選ばれていた、と記されている史料もあります。

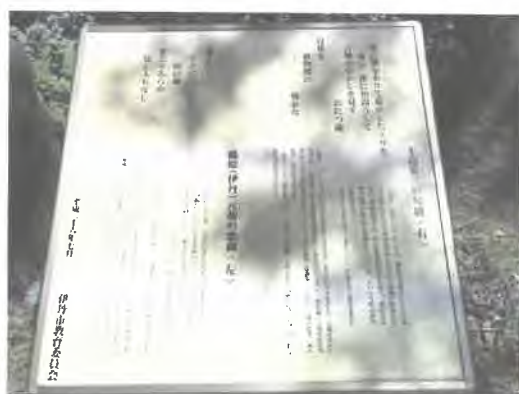
③鎌倉幕府の滅亡

13世紀後半の二度にわたる**元寇**をきっかけに、恩賞が不十分であるとして御家人たちの不満が高まっていきました。一方朝廷では、皇統が二つにわかれ争っていた為、天皇は皇位につく順番を幕府に決められていました。その体制に不満を持った**後醍醐天皇**は、幕府に不満を持つ御家人達に倒幕をよびかけ、源氏の一門の**足利尊氏**もこれに応えます。そして同じく源氏一門である**新田義貞**によって**鎌倉幕府は滅ぼされます**。

このころ**伊丹氏は尊氏に従い、各地で戦っていた**と思われる。

④建武の乱

幕府が滅びたのち、後醍醐天皇は新しい政治体制を開始しますが、倒幕に関わった御家人達は満足な恩賞ももらえず冷遇されます。そして足利尊氏が立ち上がり、後醍醐天皇と対立します。伊丹氏も再び尊氏に就いて戦いますが、天皇側についた楠木正義と伊丹において対戦したといわれています。



室町時代に活躍した伊丹元親と之親・親子の句碑。

10、室町時代

足利尊氏が京都の室町に幕府を成立させた1336年から、15代将軍足利義昭が織田信長によって京都から追放された1573年の235年間を室町時代といいます。室町時代後期の応仁の乱から室町幕府滅亡までの期間を戦国時代は戦国時代ともいわれます。

①師直塚

室町幕府の成立直後、執事の高師直と足利尊氏の弟・足利直義との間に争いがおきます（観応の擾乱）。

1351年、内出浜の戦いで高師直は敗北し、その後武庫川付近で殺害されました。伊丹市池尻1丁目には師直塚とよばれる石碑があります。

②伊丹城の所見

このころの日本は、幕府側の北朝と後醍醐天皇の流れをくむ南朝にわかれ、天皇が2人いる状態でした。そして南朝側は京都を幕府から取り戻そうと、幾度となく攻撃してきました。1336年には、南朝方の楠木正儀の軍勢が幕府側の伊丹城を攻撃したと記されており、「伊丹城」が初めて文献上にあらわれました。

③その後の伊丹氏と伊丹城

その後の伊丹氏は幕府の管領・細川氏の家臣として活躍していました。中でも之親（ゆきちか）と元親（もとちか）の親子は文化的な素養を持っており、JR伊丹駅の前には2人の詠んだ歌の石碑が立っています。

応仁の乱以後は、細川家の内紛に巻き込まれ、1520年、細川澄元らの攻撃により、伊丹城が落城し、当時の城主であった伊丹但馬守らが自害しました。

また、1529年にも再度落城し、伊丹大和守元扶らが自刃しました。

さらに、1533年には一向一揆の攻撃も受けています。これらの戦いを重ね、伊丹城はますます堅城になっていき、日本初の天守を持つ城ではなかったか、といわれています。また後に荒木村重が入城する以前に、惣構えの城の基礎的な部分が出来ていたのではないか、ともいわれています。

④室町幕府の滅亡と伊丹氏の衰退

1568年、織田信長が足利義昭を奉じて入京すると、伊丹親興（ちかおき）は信長方につき、摂津三守護の一人に任命されます。しかし信長が義昭と対立すると、伊丹氏は、義昭方につきまします。そして義昭が京を追放されると、室町幕府は滅びました。また、義昭に味方した伊丹氏は没落していくことになります。

11.安土桃山時代

歴史上、織田信長と豊臣秀吉が政権を握っていた時代で、室町幕府の滅亡から関ヶ原の合戦、または江戸幕府成立の時代までをいいます。

①荒木村重と有岡城

1574年、**伊丹城**は元・池田家の家臣で、信長配下の**荒木村重**によって攻め落とされます。村重は伊丹城を**有岡城**と改名し、伊丹台地の地形を利用した**惣構え**の大改築を行ないました。1577年に伊丹に訪れたルイス・フロイスが「甚だ壮大にして見事なる城」と称賛しているほどです。

その頃の織田信長は天下統一を目指し、大阪の本願寺や中国地方の毛利勢と戦っている最中でした。これらの勢力と戦っている信長にとって、摂津国は攻防の要所となる場所でした。

しかし、摂津守となった村重が、突如、信長に反旗を翻します。信長は家臣を差し向け、説得にあたりますが、村重の意思は変わりませんでした。

村重は一年間、有岡城に立てこもります。頼りにしていた毛利からの援軍が来ないので、自ら有岡城を脱出し、戦況の打開を探ります。しかしその間に内通者が現れ、有岡城は落城し、有岡城に残された家族や一族、郎党は信長によって処刑されます。

村重はその後も尼崎城、花隈城に移って抗戦し続けますが、最後は尾道（広島県）に落ち延びます。そして、秀吉が天下人となると、「道薫」と名を変え、茶人として秀吉に仕えるようになりました。



現在の有岡城



荒木村重の歌碑

②山中幸盛（鹿之助）

中国地方の武将・尼子氏の家臣。主君の尼子氏が滅んだ後も、尼子家復興運動を続けます。織田信長を頼り、信長配下の豊臣秀吉に従って毛利勢と戦いますが、上月城の戦いで捕えられ、惨殺されました。幸盛の息子の幸元は、大伯父である山中信直（幸盛の伯父）を頼って伊丹へ落ちのび、後に地名を取って鴻池直文と名を変え、鴻池財閥の始祖となります。

③青木氏

江戸時代に伊丹の一部（北村と大鹿村）を支配していた麻田藩があります。麻田藩の初代藩主・青木一重は美濃出身で、まだ地侍であったころ、主君を次々と変えましたが、やがて豊臣秀吉に仕えるようになり、大名となります。豊臣側の武将となった一重は秀吉亡き後はその子秀頼に仕え、大坂冬の陣で勇敢に戦います。しかしその後、徳川家康方に拘束され、大坂夏の陣には参加できませんでしたが、青木氏は麻田藩として生き残ります。そして、幕府は青木氏の持っていた奥川辺の領地を天領とし、代わりに伊丹の大鹿・北村を麻田藩領としたのです。



廃藩置県当時の行政分画（「伊丹市史」より）

12、江戸時代

徳川家康が江戸に幕府を開いた時代です。政権を朝廷に戻す大政奉還まで続きます。このころの伊丹の様子はどうだったのでしょうか。

①伊丹郷町と近衛家

郷町（いたみごうちょう）とは、伊丹村を中心とした15ヶ村の集まりの総称です。江戸時代初めは、幕府領として代官の支配を受けていましたが、1661（寛文元）年、五摂関家筆頭である、**近衛家**の所領となり15ヶ村のうち、10ヶ村が近衛家領となり幕末まで 続きました。

伊丹郷町が近衛家の所領になったのには、以下のようないきさつがあります。幕府は1661（寛文元）年に、中国から招いた、僧 隠元隆琦 に寺を建てる場所として、近衛家の山城国宇治の領地を提供しました。近衛家には、その代わりとして天領であった伊丹郷町を与えたのです。

このときの近衛家の当主は、近衛基熙（このえもとひろ）でした。基熙は神を敬い、野宮（**現猪名野神社**）の本殿を再建し、また、酒造業の育成・庇護に努め伊丹が江戸へ進出する大きな力となりました。

伊丹市は近衛家の合印分を市章にしています。



近衛家の合印文が入った水桶（伊丹市立博物館）

②伊丹の酒

江戸時代の伊丹は、「丹醸」とよばれる上質の清酒の醸造地として名を馳せます。当時「濁り酒」が主流でしたが、伊丹の透明な清酒は、江戸の人々に「丹醸」「伊丹諸白」と呼ばれ大評判となりました。

戦後武将・尼子氏の家臣である、山中鹿之助の長男・新六幸元は、戦乱を逃れ、大伯父 山中信直（荒木村重の家臣）を頼り、伊丹在鴻池村で育ちました。その頃伊丹では、酒造業で栄えていたので、やがて幸元も酒造業に乗り出し、慶長5年（1600年）に清酒の醸造に成功しました。

それには、こんなエピソードがあります。主人に叱られた、鴻池中山酒屋の丁稚が、腹いせに、濁り酒の桶の中に灰を投げ込んだのです。そんなことを知らず、主人が酒を汲み上げると、昨日まで濁っていた酒がきれいに澄み、香りもよくなっていました。そして丁稚が投げ入れた灰によることをつきとめ、それ以後は灰を加えて澄んだ清酒を売り出したと言われていました。



「七難八苦・山中鹿之助と新六の親子物語」鴻池商工会より

そして、伊丹や灘五郷で生産された清酒は樽廻船で江戸に運ばれ「下り酒」として人気を博しました。また、酒造家たちの時代を先取りする気質が阪神間の文化を育んだといえます。この歴史的な流れが2020年、『伊丹諸白』と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、**伊丹と灘五郷**』として日本文化遺産として登録されました。

③上島鬼貫

上島鬼貫は、1661年（万治4年）4月4日に伊丹の清酒『三文字（さんもじ）』の醸造元『油屋』の三男として生まれました。醸酒家の多い伊丹では、俳諧が盛んで、鬼貫はその環境の中で育った為、幼少の頃より俳諧に親しんだのでした。鬼貫の生涯を下の3期に分け説明します。

①**青年期** 24歳まで。伊丹の若者たちと俳諧（注①）に熱中します。

1668年（寛文8年） わずか8歳にして最初の句を詠み世間の人々を驚かせました。
『来い来いと いえど蛩が 飛んで行く』

1673年（延宝元年） 伊丹を訪れた京都の俳人、松江重頼（のちに維舟）に入門します。

1674年（延宝2年） 伊丹に遊びに来ていた、松江重頼の弟子 池田宗旦という俳人が也雲軒（注②）を開き、伊丹の若者たちに俳諧や古典を教え、**伊丹風俳諧**を起こしました。

鬼貫は也雲軒に入塾し、伊丹の酒造家の息子たちと共に伊丹風俳諧を学びました。

1678年（延宝6年） 鬼貫の名前を使用。（注③）

1680年（延宝8年） 16歳の時、西山宗因の談林派に入門する。

②**中年期** 25歳～57歳に当たる時期で、伊丹を離れ武士として生きようとなりました。

1685年（貞享2年） 鬼貫に転機が訪れます。自由奔放で奇抜な発想を楽しむ伊丹風俳諧に疑問をもち、さらに奥の深い俳諧を求め25歳の春

『まことの外に俳諧なし』（注④）という独自の俳風を確立します。

そして、この年、医者を目指して大阪に出るのでした。

1686年（貞享3年） 武士を志し、藩の勘定職や京都留守役を兼任する中で、京都にやってきた松尾芭蕉らと親交を深めます。

③**晩年期** 享保3年～元文3年（1738年）

1718年（享保3年） 俳諧書『独ごと』を刊行、「**東の芭蕉、西の鬼貫**」と名声を博しました。

1738年（元文3年） 8月2日、大阪鰻谷で、78歳で死去します。伊丹市の墨染寺には、長男との親子墓があります。

（注①）俳諧...俳句のこと。

（5.7.5の17音という短い文で作られていて、世界で一番短い文だといわれています。）

（注②）也雲軒（やうんけん）とは、池田宗旦の開いた私塾で、

多くの伊丹の俳人を輩出しました。

（注③）鬼貫とは（鬼の貫之）、即ち 紀貫之をもじったものです。

（注④）句を作る上で、日常の言葉を使い、ありのままを表現する信実の心（=まこと）を大切にすること。

13、近代～現代の伊丹

江戸時代が終わり明治時代になると、**廃藩置県**が断行され、伊丹市域の町村はすべて**兵庫県**に属することになりました。そして、明治～大正～昭和を経て、今の伊丹市となっていきます。

また、鉄道網や空港の設置等、伊丹内の交通網も整備されていきました。

①伊丹町の誕生

1889年（明治22年）4月1日、町村制施行により、伊丹市域の町村は、伊丹町・稲野村・神津村・長尾村の四町村に統合され、**伊丹町**が誕生します。

伊丹町は、近代となっても、文化の中心地であり、河辺郡役所の郡制が廃止される大正末年まで、伊丹町の中心部（現在の小西酒造本社付近）に設置されていました。

②伊丹市の誕生

1940年（昭和15年）11月10日伊丹町と、西隣の稲野村が合併し、『**伊丹市**』が発足します。この合併話は1935年（昭和10年）頃から既に持ち上がっており、合併までには色々と問題がありましたが、両町村とも財政難であった事や、伊丹町側が合併に熱心だった上、稲野村も企業の進出を見越した工場・住宅地域づくりを目指していたこと等から、合併に至りました。

1947年（昭和22年）3月1日 **神津村合併**

神津村は、小坂田・下川原・中村・東桑津・西桑津・森本・口酒井・岩屋の8地区から構成されていました。合併については、神津村村内で賛否両論ありましたが、最終的に合併となります。神津村の田畑300ヘクタールのうち約80ヘクタールが、伊丹空港の拡張で無くなったこともあり、神津村の財政力が弱っていたことが合併を促進させた要因と言われます。この合併により、伊丹市人口は53,200人になりました。

1949年（昭和24年）長尾村との合併が議決されるも、長尾村民の間に反対の声が高まり見送り。
1955年（昭和30年）4月1日 長尾村の内荻野・荒牧・大野新田地区を編入し、伊丹市は現在の市域となります。

③伊丹の電車

伊丹における最初の鉄道は、**川辺馬車鉄道会社**です。1891年（明治24年9月）に伊丹～尼崎間が開業します。同鉄道はその後、**摂津鉄道**、そして**阪鶴鉄道**と社名を変更し、以後発展していくこととなります。この阪鶴鉄道が国有化され、1907年、**福知山線**となります。

また、1920年（大正9年）、**阪急伊丹線**が開通し、産業経済の促進と共に伊丹町は住宅都市として目覚ましい発展を遂げました。



地上駅時代の伊丹駅



稲野駅

④戦争時の伊丹

昭和12年に起こった日中戦争を皮切りに、太平洋戦争、第二次世界対戦へと戦火は広がっていきました。やがて日本本土にも米軍の空襲が行われ、伊丹市でも3月19日、6月15日に空襲にあっています。その際は東洋紡績伊丹工場が全焼し、民家も焼失しています。被害としては死傷者28名、前半焼家屋95軒にものぼりました。また、戦地に赴き、戦没者となった方々は872名となっています。

⑤伊丹空港

【開港】

大阪国際空港は、1939年（昭和14年）1月17日に、大阪第二飛行場として、兵庫県河辺郡神津村に開港しました。大阪飛行場（木津川飛行場）の移転として移転先として建設されましたが、日中戦争が勃発した直後であった為、実質的には、軍民共用飛行場となり、大日本航空の乗り入れの他軍用機の発着も行なわれました。

【軍用飛行場へ】

1941年12月の第二次世界大戦中は軍用飛行機の伊丹飛行場となり、近畿圏における主要飛行場として陸軍が使用しました。

1945年8月の敗戦後はアメリカ軍に接收され、伊丹の名称を継承して、伊丹エアベースと名づけられました。（現在、広く使われている大阪国際空港に通称である伊丹空港は、この時定着したと言われています。）

【再開港】

1958年3月18日に接收解除後、大阪空港として再開港しました。そして1955年7月3日には、第1種空港として大阪国際空港に改称し、現在の礎を築いたのです。

14、平成～現代の伊丹

平成の時代、伊丹での大きな出来事は、1994年、伊丹空港が**国内線の基幹空港**として再出発したことがあげられます。

さらに忘れてはならないのが、1995年の**阪神淡路大震災**で甚大な被害を受けたことです。倒壊した阪急伊丹駅ビルが復興するのに約3年もかかりました。

産業面では2002年にイオンモール伊丹、2012年にはイオンモール伊丹昆陽がオープンしています。

また、2008年には伊丹の観光地として今ではおなじみの、伊丹スカイパークが開園しています。

そして2022年、柿衛文庫、伊丹市立美術館、伊丹市立工芸センター、江戸時代に建てられた旧岡田家住宅と旧石橋家住宅からなる伊丹市立伊丹郷町館、伊丹市立博物館を統合し、「市立伊丹ミュージアム」が開館しました。

江戸時代に郷町とよばれた町は今でも文化の拠点であり続け、「**みやのまえ文化の郷**」として親しまれています。

そうした変遷を乗り越え、伊丹市は進化し続けていくのでしょう。



スカイパーク公式HPより

おわりに

最初は1~2日で終わると思っていたのですが、作業を続けていくと結構大変でした。夏休みの自由な時間はほとんど本を読むか、インターネットで調査をしていました。

しかも、伊丹の歴史をしらべる上で、日本の歴史と比較してみると、意外に理解していないことがわかり、焦りました。最初から史料を読み直して勉強のやり直しをした部分もたくさんあります。

もともとは街歩きや博物館や史跡めぐりが好きで、作業を続けるうちに、伊丹市内の今まで行った場所での記憶がよみがえり、楽しい思い出もしました。またその時見た謎の石碑や建造物の正体がわかってスッキリもしました。

今回は付け焼刃な出来栄で、あまり満足はしていませんが、本を読んで調べる楽しみ、新しい事を発見する楽しさを満喫できました。

また時間を見つけて、子供達と一緒に、図書館を利用した楽しい思い出づくりをしていきたいと思います。



現在の昆陽池

参考文献

書名	著者・発行者	出版社		
伊丹史話	伊丹史編纂室編	伊丹市役所	南図書館	
伊丹歴史探訪	小西新太郎	小西酒造株式会社	南図書館	
日本の歴史	関戸衛	朝日新聞社	南図書館	
新・伊丹史話	伊丹市博物館	伊丹史博物館	伊丹図書館	
来て見て知って 歴史と文化 伊丹を歩こう	伊丹市文化財ボランティアの会	伊丹市文化財ボランティアの会	伊丹図書館	
身近な地域 伊丹	伊丹市中学校社会科研究会	伊丹市教育委員会	個人所有	
歴史資源	伊丹市役所	伊丹市役所	個人所有	
伊丹の史跡をたずねて	山本 堅之助	伊丹市教育委員会事務局	伊丹図書館	
伊丹小史	若林 喜三郎	大手前女子学園	伊丹図書館	
明治期伊丹の鉄道	伊丹市立博物館	伊丹市立博物館	伊丹図書館	
伊丹台地の史話と昔話	坂上太三	あさひ高速印刷出版	伊丹図書館	
伊丹史埋蔵文化財マップ	伊丹市			
伊丹史埋蔵文化財史料	伊丹市			
いたみウォーキングマップ	伊丹市・株式会社ゼンリン			

インターネット

webページ名	WEB製作者	WEBサイト名	
伊丹段丘の崖を歩く	大阪高低差学会	大阪高低差学会	
ウィキペディア	ウィキペディア財団	ウィキペディア	
江戸時代年表	コトバンク	コトバンク	
日本史年表Ⅳ（江戸時代）	コトバンク	コトバンク	
「下りもの」を運ぶ菱垣廻船・樽廻船～株仲間とは？	中学校の社会科の授業づくり	中学校の社会科の授業づくり	
日本史用語集	幕末トラベラーズ	菱垣廻船とか樽廻船ってなんのこと	
濁酒から清酒へ ～伊丹酒興隆の歴史と共に～	伊丹酒造組合	お酒の研究と資料	
鴻池稲荷祠碑で、清酒発祥の地伊丹	伊丹史	いたみでみたいこれ、なあに？	
浪速の豪商 鴻池家の歴史	大阪美術倶楽部	鴻池家の歴史	
近衛 基熙	伊丹市文化財ボランティアの会	伊丹ゆかりの歴史上人物	
萬福寺と黄檗宗	黄檗宗大本山萬福寺	萬福寺について	
上島鬼貫の有名俳句	俳句の作り方	短歌の教科書	
展覧会のご案内	公益財団法人 柿衛文庫	原田行政書士法務事務所の駅ブログ	
伊丹の合併の歴史！	原田行政書士法務事務所	酒と俳句と街並みと	
伊丹郷町での取組	大阪市立大学大学院創造都市研究家	酒と俳句と街並みと	
伊丹市内の文化財	伊丹市	伊丹市	